

TRAINING

AI協働開発ハンズオン講座

情報系トラックDay1

補足資料 AIの限界と付き合い方

本資料の二次転載禁止について

本資料の二次転載を**禁止**します。

本資料は株式会社ギブリーが作成した著作物です。受講者ご本人の学習および業務での参照に限りご利用いただけます。社外への配布、SNS等への掲載、第三者への共有はご遠慮ください。

研修中の画面撮影・録画も、資料が写り込む範囲ではお控えください。

得意な作業と苦手な作業

AIは書く作業が得意ですが、正しさは保証しません

	得意な作業	苦手な作業
1	入力フォームや一覧表など、手で書くと面倒な定型の雛形を作れます。	客先固有の仕様と社内規約は知りません。こちらが渡さない限り、出力には反映されません。
2	既存コードを説明できます。コメントも付けられるので、読む手間が減ります。	ライブラリは、学習した時点の仕様までしか知りません。
3	命名と型をそろえられます。数十か所に及ぶ書き換えに向いています。	存在しないメソッド名を、自信のある文体で出します。

苦手な作業の誤りは、工夫しても防ぎきれません。AIの仕組みから起きるので、前提として扱ってください。

自信のある文体で返る誤り

動かすまで、正しいかどうかは分かりません

作業記録アプリで工数の合計を出すコードを頼むと、次のような誤りが返ることがあります。読みやすく書かれていますが、2行目のメソッドは存在しません。

```
// 返ってくることのある形（このままでは動きません）
const total = records.sumBy('hours');
// 配列に sumBy はありません。実行すると TypeError で止まります。

// 実際に動く形
const total = records.reduce((sum, r) => sum + r.hours, 0);
```

この1行は、読んだだけでは間違いに見えませんが、ブラウザで開いてConsoleを見れば、すぐに分かる誤りです。

モデルが一度に読める量には上限があります

前半の指示が読まれなくなる仕組み

会話が長くなってモデルが一度に読める量を超えると、古い部分から読む範囲を外れていきます。最初に決めたルールが守られなくなるのは、このためです

会話が長いときに出る3つの症状

会話が長くなるほど、さっき直した箇所が元に戻ったり、命名の約束が守られなかったりします。存在しない前提で答え始めるのも、会話が長いときに増える症状です

新しいチャットへの切り替え

同じスレッドで頼み続けるほど、症状は増えます。新しいチャットを開き、必要な前提だけを渡し直すほうが速いです

毎回渡す前提が決まってきたら、第1回の午後に置く規約ファイルに書いておきます

AIが間違えやすいのは**新しい技術**です

学習した時点より後に出た仕様

モデルには学習を打ち切った時点があります。それ以降に出たライブラリの仕様や変更は入っていません

知らないと言わずに返す古い書き方

廃止された関数名や昔の書式を、自信のある文体で出します。誤りに気づくのは、動かしたときです

公式の情報を先に渡す聞き方

使うライブラリとバージョンを書き、公式ドキュメントの該当ページを開いた状態で聞いてください。この2つで、古い書き方で返る誤りが大きく減ります

新しい技術ほどAIは間違えやすいと覚えておくと、判断が速くなります

読み切れる量だけをAIに頼んでください

1

自分が読める量に収まる頼み方

ファイル1つか関数1つの単位で頼みます。全部まとめて作らせると、確認できないものが手元に残ります

2

変更点だけを見る受け取り方

全文を出さず、どこをどう変えたかを聞きます。読む量が10分の1になります

3

頼む前に決める確かめ方

動かして何が出れば正解かを先に決めます。決めずに受け取ると、全部を読む羽目になります

4

読まずに通したコードの責任

「AIが書いたから」は理由になりません。出せる状態かどうかは、最後に編集した人が判断します

チェックが追いつかないときは、たいてい一度に頼む量が大きすぎます



株式会社ギブリー (Givery, Inc.)

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町15-13 帝都渋谷ビル8F